

訪問レポート

ディスプレイの光学測定機器の販売やコンサルティング事業などを手がけるアフロディ(株)(東京都町田市)では、ディスプレイ表面のぎらつきを測定する「SMS-1000」や、ディスプレイの空間解像度を定量的に計測することができる「MTF(Modulation Transfer Function)測定システム」を、技術サポートサービスの提供とともに拡販を図っている。

アフロディ

あるため、導入サポートからアフターフォローまでが必須であり、これらを一貫して提供できることを強みに、国内での採用件数を増やしている。SMS-1000は、

も着手する。すでに、国内にある海外メーカーの研究機関には導入が進んでいる(嶋氏)という。同機器は、AG(アンチグレア)処理をしたディスプレイ表面のぎらつきの程度を数値化できる装置で、19年にJIS、22年にIEC認証を取得

新しいアルゴリズムも開発済みだという。MTF測定システムは、ASTROデザイン(株)とNHK放送技術研究所が開発した。画像・映像の鮮明度を定量的に測定でき、表示面の見え方のばやけ具合を数値化できるシステムだ。アフロディ

る計画だ。23年にはIEC認証を取得する見通しで、画質評価の1つとして、業界標準機へと育てていく(同)という。製造元の専門エンジニアと契約して、年間の機器の校正に対応しているだけでなく、長年ディスプレイ業界に携わる嶋氏

ない。動作させるPCの性能から、導入・運用方法、専門エンジニアの派遣に至るまでを、システムの一環として提供できる点が当社のアドバンテージだ。また、自社内に測定ラボも設けており、実際の機器を使って計測したいというお客様が増えてきている。国内で唯一の、ディスプレイ専門評価環境を作り上げていく(嶋氏)。

「来年も、旧ソニーのOB・OGで作るコミュニティを発足したいと考えている。ソニー時代に、ディスプレイ関連事業の社内コミュニティの発起人となった経験がある。最初は仲間同士の小さな勉強会からスタートしたが、口コミで広がり、最終的に100人以上のコミュニティとなった。他部署でのような課題があり、お互いにどのようなコラボレーションができるかは、目の前の仕事をこなしているだけでは見えないことが多い。同様のコミュニティを作り、最終的にはソニー関係者だけでなく多くの人が集まってもらい、ディスプレイ業界の発展の一助となる場になりたい(嶋氏)。

ディスプレイの光学測定機販売

専門技術サポートも一貫提供が強み

同社は代表取締役CEOの嶋秀一氏が2013年に立ち上げ、ディスプレイの光学測定機器の販売から保守メンテナンス、技術・顧客サポートまでを手がけている。専門性が高い機器で

独検査機器メーカーのDM&S社製で、これまでに国内は車載やノートPC向け、部材メーカーなどで採用が進み、「ほとんどの国内の大手メーカーで採用されている。さらに拡販を進め、24年度には国内で累計50台以上を目指す。また、23年度からは、韓国、中国のディスプレイ関連メーカーへの販売展開に

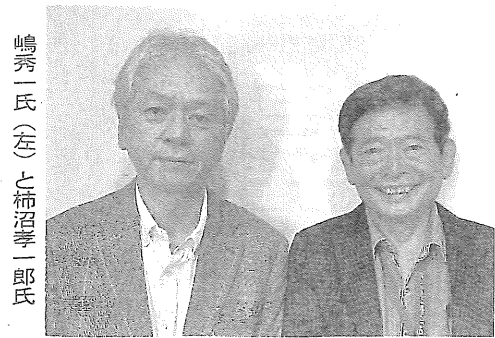
し、すでにデファクトスタンダードになっている。近年、スマートフォンのように進む高精细化に対応し、500ppi以上の超高細ディスプレイの測定が可能なカメラレンズも、オプションとしてラインアップした。また、高精細パネルでの測定均一性を保持する

イでは、4月から取り扱いを開始し、現在顧客開拓中だ。「次世代ディスプレイでのニーズが出ており、すでに空中ディスプレイ関連メーカーへの導入が決まった。大型パネルや、プロジェクトでのニーズも出ているため、機器を増強して新しいソフトウェアを開発す

と、4月から同社顧問に就任した柿沼孝一郎氏が、エンジニアと同等の知識を持ち、導入から運用サポートまでできることは同社の強みだ。「単に機器を購入するだけでは、WEBで済んでしまう。当社の扱う機器は専門性が高く、買い切りで完了するものでは

嶋氏は、前職のソニー(株)でディスプレイ事業に携わり、HTPS(高温ポリシリコン)の開発やモバイル事業などを手がけてきた。柿沼氏も、04年に超高画質、広色域テレビ「QUALIA」で採用された世界初のLEDバックライトの開発を指揮するなど、長年ディ

(澤登美英子記者)



嶋秀一氏(左)と柿沼孝一郎氏